

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日:平成 4年 3月 10日

公表:平成 年 月 日

事業所名 ジーニアスタディ緑校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	10人が余裕をもって過ごせるスペースの確保を心掛けている。	勉強、余暇の時間を決めてメリハリをつけて動けるようになっていきたい
	2	職員の配置数は適切である	4	0		可能な限りマンツーマン指導ができるよう人員を配置し、かつ知識を持ったスタッフが配置できるようにしていきたい
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	4		集中継続困難な利用者に対して仕切りを設ける、車いす利用者の為のバリアフリー構造、クールダウン可能名場所の確保も必要
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	2		なぜなぜ分析を用いて再発防止に努める、全スタッフとも共有
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	1	全スタッフが閲覧可能にしている、	今後は評価表をもとにMTを開催。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	期日の厳守	今後も継続して行っていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	3		児施設で終わるのではなく、上長に見てもらうことで業務改善に繋げる
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0		外部講師を招きZOOMも利用し研修を開催、今後も様々な教育法を学び実践していきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	0		メールや送迎時の申し送りでヒアリングを実施、今後はスタッフ全員の意見を集約できる仕組みづくりを構築していきたい
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	3		早急に適応行動の状況を把握し対応していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	施設MT内でスクール内容を見直し、目的と達成度合いを再確認。	今後は全スタッフが主で行えるよう内容を共有、確認し意識を高める。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	施設MT内でスクール内容を見直し、目的と達成度合いを再確認。	今後は全スタッフが主で行えるよう内容を共有、確認し意識を高める。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	0	子供たちの体力、業中力を考慮して活動を組んでいる。外出イベントは何を目的にしているのかを明確に決めている。	今後も継続して行っていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	1		達成可能な計画を組み立て、自信をつけさせるようにスクールを進める
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	スクール内容とサポート内容の確認を行う。	今後も継続して行っていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	2		施設会議や担当者会議で振り返りを行っているが、その日に行われた支援に関しての振り返りが不十分、気になったことを話す機会を作っていく必要がある。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	1	その日できるようになったことは連絡帳に記入。	今後は記入のみではなく送迎時に保護者様と話す時間を確保し改善に繋げたい
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	0		メールや送迎時の申し送りでヒアリングを実施
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	0	4		ガイドラインの熟知を再度行い、支援をしていく。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	0	2週間に一回のペースでサービス担当者会議を行い、該当児童の担当者を中心に話し合い、情報共有をおこなっている。	今後も継続して行っていく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	0	学校毎に年間、月毎の行事予定の情報収集に努め連絡し調整が必要な場合はその都度対応を行っている。	今後も継続して行っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	0	ガイドラインに沿って、医療的ケア児を受け入れた場合の一連の流れ体制がとれるように周知を行っている。	今後も継続して行っていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	0	同系列の児童発達支援校から続きで利用の場合、スタッフ間での情報共有を行っている。	他施設からの新規利用者についても相談員、親御さんからの情報収集を行い、今後も相互理解に努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	0		自施設ではまだ卒業し、移行する児童は居ないが、これまでの支援の情報を提供する準備は常に整えていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	0	代表者1名は参加、連携をおこなっている。	今後も継続して行っていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	0		コロナ感染予防のため現在は交流を控えている状態。感染状況が落ち着いたら交流の機会を設ける為話し合いを行っている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	0	代表者1名は必ず出席できるようにしている。	今後も継続して行っていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	モニタリングの時期も含め、送迎の際にその日の出来事や直近の様子を伝え、親御さんからも聞き取りを行う事で共通理解に努めている。	今後も継続して行っていく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	0		必要に応じて支援を行っている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	見学、契約の時点で分かり易い言葉でお話するよう心掛けている。	今後も質問等があった場合にはその都度、納得頂けるまで説明を行っていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	保護者からの相談、質問に関してはその都度適切な対応を心掛けている。	今後も保護者とのコミュニケーションを図り、相談し易い関係性を築くように心掛けていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	4		現在はコロナ感染予防対策の為、集まることは控えている。施設ミーティングの際、集まる以外で保護者同士の連携をどう支援していくか話し合いを行っていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	保護者からの苦情があった場合、すぐに管理者に報告している。	スタッフ間で苦情内容の共有を行い今後も再発防止に務めるようにしていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	定期的に会報の発行を行い毎月活動カレンダーを配布、保護者や子どもから内容確認があった場合全スタッフが対応できるように心がけている	今後も継続して行っていく。
	35	個人情報に十分注意している	4	0	鍵のある書庫で管理し、関係者しか閲覧できないようになっている	今後も継続して行っていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	1		現在、対象になる子どもや保護者はいないが、対象者がいた場合、適時配慮をしています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	4		コロナの影響もあり事業所に地域住民を招待することはしていませんが、地域の避難訓練に参加するなど地域との連携を図りたい

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	0	施設内に対応マニュアルを掲示して迅速に対応ができるように心がけている	今後も継続して行っていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	法人内で担当者が集まり発生時の対応が行えるようにしている。施設内でも月1回ほど災害について訓練などを行っている。	今後も継続して行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	法人で虐待防止委員会の会議等があり、適切な対応を行うよう努めています。	今後も継続して行っていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	0		やむをえず行う必要がある場合、職員間で話し合い、個別支援計画書に明記して保護者に説明をし、同意をして頂くようにしています。身体拘束を行った際は、記録をのこした上で、保護者に説明していきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	0		対象の子どもがいた場合は、医師の指示書に基づく対応をさせて頂きます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	0	事例があった場合、速やかに作成し、再発防止に努めるようにしている。	今後も継続して行っていく。